

まなのなるあさまの山もゆなればふじのけぶりのかひやなからん

〔拾遺和歌集十六卷〕ひえの山にすみ侍けるころ、人のたき物をこひて侍ければ侍けるまゝに、すこ

しを、梅の花のわづかにちりのこりて侍る枝につけてつかはしける、如覺法師

春すぎてちりはてにける梅のはなたゝかばかりぞ枝にのこれる

〔御湯殿の上の日記〕慶長八年七月十日、まやうぐん徳川家康ふしみよりのぼりにて、たき物参る、御

つかいひろはしう大辨なり

〔言經卿記〕慶長十年九月十一日癸未、伏見へ罷向、全阿彌ニテ休息了、次御城へ参了、先夕喰被下了、

廣橋亞相、予、勸修寺黃門、冷泉中將、烏丸頭辨、四條少將、内藏頭、舟橋式部少輔等也、次御對面了、禁中

ヨリ燒物方、宸筆被遊、將軍徳川家康へ被参了、廣橋勸修寺等御使也、薄暮歸宅了、

〔尺素往來〕燒香、又面白存候、但不所持之候、名香之品々者、宇治藥殿、山陰沼水、無名名越、林鐘、初秋、神

樂、逍遙、手枕、中白、端黑、早梅、疎柳、岸桃、江桂、苧萱、菖蒲、艾、忍、富士根、香粉、風、蘭、麝、袋、伽羅木等、縱雖、兜樓

婆、畢力迦、及海岸之六、銖、淮山之百和、不可勝於此候、

〔運歩色葉集〕賀香名、蘭奢待自東大寺出故名之、蘭奢待ノ内、有東大寺之字、

〔節用集財寶〕蘭奢待

〔名香目錄〕太子、木所佐尊羅

き、いかにもかろくすゝしうして、たぐひなきかほりなり、

蘭奢待、伽羅

き、ふるめきまづかにして、たえぐなるこ、ちありて、あむにむのかほり次第に出る也、是

すなはちかうのもと也、他は是になぞらふべし

逍遙、伽羅